

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会		
事業所名	グループホーム氷川 (もみじ)		
所在地	熊本県八代市東陽町南762-7		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、四季を感じながらゆったりとした時間が過せる。また苑内には広々とした庭、菜園、いくつかのクラブ活動もあり趣味を活かした生活を送ることができる。年間を通じて母体施設や地域との交流、行事も盛んに行われており、医療面においても母体施設や地域の医療機関と密に連絡をとり連携できるように努めている。また個人においても希望や要望に応じた環境作り、外出支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームを取り囲む山野や、川の自然の様に、入所者一人ひとりのその人らしい過ごし方を尊重して見守り、足りないところをさりげなく補う支援が行われている。
 ・新聞のチラシ広告や、テレビを見ながら聞こえてくる入所者のつぶやき等から、食べてみたいものや行ってみたい所など、希望の把握に努めている。カップラーメンやマクドナルド、ファミリーレストランでの外食を実施して、入所者と職員と一緒に楽しんでおり、春の日差しのように明るく、笑い声が絶えないホームの暮らしが見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで斉唱し理念を念頭に置いたケアの実践に繋がれるようにしている。また日々のケアでの問題点などを都度検討し月一回のスタッフ会議で確認している。	ホームでの経験が浅い職員が、理念やグループホームについての理解を深めるため、毎朝の唱和に加えて、認知症やグループホームについての書籍や、入所者のファイルを整理して、ケアに戸惑うときの参考・拠り所として整備している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設全体が地域との連携が取れており、施設行事、奉仕活動、地区の老人会への参加などで地域との関わりはできている。	隣接する母体法人の特養・通所の利用者と共に地域交流に参加している。入所者と職員が、老人会や生き生きサロンに出かけたり、小学校の運動会では、ホームからの参加を期待した「土産釣りゲーム」が毎年プログラムに入れられており、入所者も楽しみに参加するなど、日常的な交流ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅支援事業所が行う介護教室に参加したり、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設状況、活動報告、事故報告など行っており、それについての意見、質問を受けている。また施設側からの意見にも答えてもらっている。地域の情報も提供して頂き活動に取りこめるようにしている。	民生委員・家族代表・行政職員・元利用者家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催され、ホームから活動状況、職員の異動やイベント等に加え、ヒヤリハットや事故等の報告が行われ、透明性のある運営と会議に努力されている。また、委員からは地域や行政の情報が提供され、意見交換も行われており、協力的な運営推進会議となりホームでの活動に取り入れられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は毎回参加して頂いており、グループホームへの意見や行政に対する疑問点、行情報などを尋ねている。また直接電話で尋ねる事もある。	運営推進会議に於いて、町の行事や取り組みについて報告や、インフルエンザや感染症についての警告等、その都度必要な情報の提供があり、協力的な関係ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を法人合同で設置し、マニュアルを定め勉強会を行っている。行動を抑制しないように危険やトラブルが伴わない行動に対してはなるべく見守りで対応している。	掃除が好きな人には、箒と塵取りを渡し、台拭きが気になる人には、台拭きの役割を依頼し、職員が側にいるだけで落ち着く人には手を握って一緒に座るなど、その人の思いと自由な行動を大切に身体拘束のないケアへの取り組みが行われている。拘束に関して疑問がある際は、法人の拘束委員会に相談して確認する等、問題意識を大切にケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などには積極的に参加するようにしている。また気になる事はその都度注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などには積極的に参加するようにしているが活用できるまでの理解はまだ出ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改正時に説明し同意を得ている。またその都度疑問点なども尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会が作られており、家族が参加できる行事などの時に意見を頂いている。また面会時に近況報告なども行い、グループホームからの提案も出させてもらっている。	毎年恒例で開催される、法人全体の家族会後、グループホームの利用者家族だけがホームに立ち寄り話し合う機会を設けているが、家族からの要望はあまり出ない。昨年、「寄り道」感覚で、家族に立ち寄ってもらう企画の予定があったが、ホームの立地条件もあり、企画の再考が必要となり、実施には至っていない。家族が意見を言いやすい環境づくりへの継続的な取り組みを期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との全体会議や月一回のスタッフ会議などで意見や提案を聞き、スタッフ全員で検討している。また必要に応じて都度意見を聞けるように努めている。	毎月のスタッフ会議では、法人全体の主任会議での内容を伝えたり、翌月の活動計画を決めたり、業務上の注意事項の伝達やカンファレンスを実施している。事務室に設置されているホワイトボードに記載された行事予定や、書類等を見やすく整備して情報共有に努め、意見や提案が出しやすい環境づくりへの工夫が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員に合わせた勤務形態である。研修会参加や各資格習得に向け、学習動奨を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会、八代部会の勉強会、外部の勉強会などに参加している。内容を共有できるように発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代部会の研修会、親睦会などに参加し困難事例の検討や質の向上に向けた取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のケアマネからの情報を元に、家族、利用者からの要望も聞きながら利用者の心身の状況や想いを酌めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安な思いを傾聴、意見し信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当だったケアマネや家族からの情報を整理し、必要とされる支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	性格の把握に努め、人生の先輩としての立場を尊重しながらも一緒に喜怒哀楽を共に感じれるように生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期のお薬届や病院受診、散髪来苑や日用品届など出来るだけ家族に関わって頂けるようなきっかけ作りが出来ている。また年2回個人用のGH通信を各家庭に配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会、文化祭、小学校行事、老人会など、なるべく参加できるように努めている。また施設開催のグランドゴルフ大会やお寺参りなどでも地域の方達との交流の場を設けている。	週1回、隣接するデイサービスにオープンされる「居酒屋」で、お茶と饅頭等を食べながらカラオケを楽しむ会に参加し、知人のデイ利用者との交流を楽しむ機会がある。また、お盆や彼岸には、運営推進委員であり民生委員でもある坊守さんのお寺にお参りしたり、他の門徒寺にもお参りする機会を設けるなど、長年の習慣を継続する取組で心の安定を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性に合わせて席を配置し、お互いが支え合える環境作りに努めている。また孤立を防ぐためにも話題を全員で共有できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場所でも、これまでの暮らしの様子や留意点についての情報を提供し、必要に応じた支援が出来ることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、さりげなく希望や要望を聞きだせるように努めている。	新聞広告やテレビの宣伝を見ながら交わされる入所者の希望や話を聞き取り、外出先や食事支援のヒントを得ている。家事が好きで得意だった人の視線や行動を観察して、洗濯物たたみや、お茶碗洗いを依頼したり、調理の指導をお願いするなど、得意なこと、やりたいことができる環境づくりに努め、イキイキとして暮らせる支援の様子が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや家族の協力を得ながら情報を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやバイタルチェック、またケース記録などを記入することで、その日の状態や過ごし方を把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議などで意見やアイデアを話し合い、本人からは日々の暮らしの中で聞き取りを行っている。また家族へは面会時や電話などで意見を聞くようにしている。	「本人らしさが出せること」を基本とした介護計画を策定している。食器洗いができる人は、拭くことまでできる可能性があると考えて目標を設定し、日々の支援経過を参考にして3か月ごとに見直し、持てる力を更に引き出す支援を行っている。	介護計画は、「本人のできることを膨らませる」という基本的な姿勢を持っており、利用者家族に十分に伝えることで、ホームの支援的な考え方がより伝えられると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやアイデアはケース記録や申し送りノートに記入し、必要であればプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設でもあり、ホームとしても協力体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて外出支援、買い物、お寺参りなど行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の意向を確認し、かかりつけ医との安心できるような関係作りに努めている。また緊急時にも相談できる体制がある。	入所時にホームの協力医を主治医とすることに合意を得ている。緊急時は24時間主治医に連絡可能であり、また、隣接する特養の看護師の応援体制もあり、本人・家族・職員の安心に繋げている。眼科・皮膚科・精神科等の専門医への受診は、家族同行を基本としているが、必要な際は、職員も同行し、柔軟な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在時にも母体法人の看護師と相談、対応できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報を提供し、退院時にも家族、医療機関と話し合い、退院後の支援に結び付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームとしての考え方を説明し、意向を踏まえながら随時、家族や医療機関と検討するようにしている。	ホームには看護師の常駐がなく、食事が受け入れられないような状態になった際は、主治医に相談して病院搬送を基本としている。入院先へは、職員が見舞いに行き、最期まで支援する姿勢が見られた。	重度化した場合や終末期ケアについてのホームの基本的な考え方を文書化し、入所時に伝えることで、利用者や家族の心構えにも繋がると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを見やすい場所に貼りだし全職員が確認できるようにしている。また年一回併設施設と合同で救命処置講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回独自の避難訓練を行っている。緊急連絡網を作成し、災害時には非番制にて夜間の泊まり込みを取り決めている。	法人と一緒に年2回、ホーム独自で年2回、昼夜の火災を想定し、入所者も参加して避難訓練を実施している。また、大雨洪水、河川氾濫等の災害に備え、法人全体の男性職員を3班に分けて、緊急時避難に備えている。長崎のグループホーム火災を参考に、夜間は不要なコンセントを抜くなど、現状設備の振り返りも実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠けるような声かけ、対応についてはその都度注意している。また一人一人に応じた声かけや対応を行い人格を尊重できるように努めている。	トイレに新聞紙を常に置き、尿器やパットを新聞紙で覆い、人目につかないように運ぶなど配慮が見られた。また、配膳は、テーブルごとに人数分を置き、茶碗や箸、料理も入所者の配膳する力を大切に、先回りをしない、待つケアを大切に、一人ひとりを尊重した支援に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶や入浴など流れに沿って希望を尋ね、決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて活動を提供できるようにしている。また趣味を活かせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由に衣服を選び、思い思いに気に入った服を着られているが、同じ服装が続く時は声かけを行い必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には希望を聞き、ラーメンやパン食などの提供、外食も行っている。また調理会も開催し、一緒に食事を作る事もある。準備、台拭き、下膳、食器洗いなど出来る範囲でのお手伝いはお願いしている。	特養の管理栄養士が立てた献立を参考に、それぞれのユニットで調理した家庭的な料理が提供されている。魚は鮮度の高い良質なものを使用し、ホームの菜園で採れた野菜を使って調理したり、時には、ファミリーレストランでステーキやハンバーグを食べたり、駐車場でバーベキューしたり、利用者と職員が楽しめる食事への配慮がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士の献立を元に食事を提供している。食事は個別に記録を取り、水分は時間毎以外にも希望に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄は習慣になっている。義歯の洗浄も必要に応じて支援し、最低でも週二回洗浄液で消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などで排泄パターンを把握しさりげなく誘導している。行動や言動でのサインを見逃さず失敗なくトイレで排泄できるように努めている。	トイレでの排泄を基本としており、声掛け誘導・見守り・介助など、その人に合った対応で安心感を大切に、自立支援に努めている。夜間時の失禁は朝から毎日着替えと清拭等で、不快感のない快適な暮らしへの支援に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表などで確認し、朝から牛乳を勧めたり、体操や散歩など適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞き行っている。また季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを提供し楽しんでもらえるようにしている。	入浴の誘いは、スキンシップを大切に、本人の意思を確認して、無理をせず、その気になるのを待つケアを行っている。長湯・カラスの行水など、それぞれのペースを大切に、菖蒲湯・ゆず湯など、季節の楽しみも取り入れて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度に体を動かすことで夜はゆっくり休めるように支援している。また季節やその日の気温に応じて衣類や寝具の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を全職員が観覧できる場所に整理、保管しており、状態の変化には十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、食器洗い、菜園活動など希望に応じた支援を行っている。また併設施設で行われる行事などにも参加し楽しみの持てる生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じたバスハイクや行事を計画し行っている。また希望に応じてドライブや買い物、お寺参りなども行っている。	運営推進会議開催の案内を職員が委員宅に配布する際、入所者も同行したり、隣接する特養にある観音様へお参りをしたり、お彼岸にはお寺参り、季節の花やアジサイ見学、コスモス見学など、ドライブやバスハイクを利用者と職員と一緒に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、責任者が管理し希望や用途に応じて使えるように支援しているが本人や家族の意向を踏まえて本人で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて対応している。また年2回グループホーム通信を家族へ発行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭には木々が植えられ、玄関、テーブル、洗面台には花々を置き季節を感じて頂けるようにしている。また状況に応じて換気、清掃を行い不快感なく過ごしていただけるよう努めている。	「もみじ」のリビングは落ち着いた家庭的な雰囲気、「りんご」は明るいおしゃべり広場のような空気があり、入所者の生け花作品や、紙で作ったドラえもんや果物の置物等が置かれ、楽しい設えとなっている。また、ソファや椅子を多く置いて、リラックスしたり、自分だけの空間を楽しめる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファを置き自由に使用できるようにしている。また苑庭にもベンチを設置し、見守りの元で過せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使われていた物や、好みの物を持ち込まれている方もいる。また本人の作品や、家族の写真などを飾り居心地の良い部屋作りに努めている。	居室には得意の書道作品、家族と一緒に楽しい写真、尊敬する法人理事長の写真等が壁に貼られていたり、鏡台や整理タンス、趣味の編み物や裁縫道具が置かれたり、携帯電話、ラジオ、テレビなど、それぞれの心地よさをそのままに、自由な居室づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を付け、トイレ、風呂場にも案内板を設置している。また廊下には手すりを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会		
事業所名	グループホーム氷川 (りんご)		
所在地	熊本県八代市東陽町南762-7		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、四季を感じながらゆったりとした時間が過せる。また苑内には広々とした庭、菜園、いくつかのクラブ活動もあり趣味を活かした生活を送ることができる。年間を通じて母体施設や地域との交流、行事も盛んに行われており、医療面においても母体施設や地域の医療機関と密に連絡をとり連携できるように努めている。また個人においても希望や要望に応じた環境作り、外出支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼、申し送りでの確認、意識するようにし 月一回のスタッフ会議で日頃のケアのあり方を検討している。気になる点については随時話しあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設が地域と連携が取れているので、地域行事への参加もできる。また、施設行事、奉仕活動にも、協力して頂いて交流も盛んである。小学校・敬老会		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所で、家族介護者教室に協力したり、面会時などで、認知症の人の理解や、支援について話すようにしている。(いきいきサロンなどへの参加)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、活動内容や、日頃の状況など説明している。和やかな雰囲気の中、意見交換が出来ている。看取りの説明で家族の思いを聞く事が出来る。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム八代部会などで意見交換ができる。また疑問点は、直接電話で尋ねる様にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人合同で設置する身体拘束廃止委員会で話し合いマニュアルを定め、勉強会を行っている。玄関の施錠はしておらず、自由に出入り出来る。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人合同で設置している虐待防止委員会で、他施設の事例など取りあげ勉強会を行っている。日頃のケアの中で、気になることは、意見として言える雰囲気である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修に受講し、理解に努めているが、今のところ該当者はなく、職員理解は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分に説明し、不安や、疑問点は時間をかけ説明、同意を得るようにしている。面会時には気軽に話す雰囲気を中心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会が作られており、意見交換が出来る場面がある。又、面会時はお茶を飲みながら、意見を聞くように心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設の全体会や、グループホームのスタッフ会議などで、意見・提案に耳を傾け必要に応じて反映させている。(バスハイク・食事会など、合同でしたり、他部署への参加)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件に考慮した勤務形態である。内容に応じた研修会参加や各資格取得に向け、学習勸奨を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会には、積極的に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代グループホーム部会の月1回の勉強会・研修会、年2回親睦会などに参加、困難事例の検討や、質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネージャー、家族より情報収集に努める。本人の言動、思いを的確に捉えるように、見守り・先取りした言動はしないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴、理解できるように、家族と会話を多くするようにして、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を元に、入所の時本人、家族とじっくり話をして、必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの思いを聴き、常に人生の先輩として、いろいろ尋ねながら、喜怒哀楽を共に感じ生活してる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の電話は希望があれば随時対応している。面会・外出などもいつでも出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事(敬老会・文化祭等)参加、地元のお寺参り、グランドゴルフ大会見学など、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、レクレーションなどを通じてお互いが支えあう環境作りに努めている。共通の話題提供を考え会話が弾むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人・家族の経過を見守りながら相談や支援できる事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に担当ケアマネージャーから情報収集・本人・家族様からも話をしながら、情報を集めるようにしている。出来るだけ本人の思いを優先するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を元に、入所の時本人、家族とじっくり話をして、必要としている支援を見極めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のバイタル、発語などの変化に注意し、体調の変化を見逃さないよう、目配り・気配りし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の会話や暮らしぶりから、家族との面会時の会話から本人にとって何が一番よいのかを話し合い介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアに実績などは個別記録に記入し、申し送りの時皆で共有、検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設で、いろんなサービスを提供しており、行き来が可能で柔軟な対応ができています。 (習字・花)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、買い物を希望される入所者に対して個別に支援するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族と本人の意向を聞き、安心できるような関係を築きながら、医療を受けている。専門医療機関への紹介もして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師といつでも相談出来る体制で、急変時の対応も適切に行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関への情報提供、情報交換に努めている。入院中も家族、病院と話し合い、退院後も不安がないよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、随時家族と話し合い医療機関と相談、状態に応じて検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成見える所に貼り、対応についても、日々の申し送り、スタッフ会議の際周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体法人の避難訓練と独自の避難訓練を昼夜を想定して行っている。地域の消防方面体の協力体制も取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を意識して、子供扱いにならないよう、言葉掛けには注意している。特に排泄介助の言葉掛けは大声は出さず、さりげなくを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の先取りした声掛けや、返事のみでの質問にならないよう、待つケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	母体法人の行事がない限り、今日は何がしたいですか、何をしましょうか、と尋ね希望があれば応じるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪飾りの好きな方、スカーフをしたい方には、希望に応じて支援、洋服も出来るだけ本人に選んでもらうようにしている。男性の方には、髭剃りの声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいですか、今日は何にしますか、と会話をしながら、食事作りをしている。季節の食材をとりいれたり、四季折々の行事食で楽しんでもらっている。配膳・下膳も一緒に行い、失敗されないよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人管理栄養士の献立を元に、毎日の食事作りをしている。水分の少ない方には、コーヒー・紅茶など違った飲み物で、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄の声かけや、一部介助で清潔保持に努めている。入れ歯洗浄も2回以上行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをもとにさり気ない声かけ、トイレ誘導をしている。リハビリパンツから布パンツへと排泄されるよう、パット等も出来るだけ使用しない様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをもとに排便困難な方には、空腹時の黄な粉牛乳や献立に、サツマイモ・豆類などを取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日でも希望があれば、可能である。時間帯なども、お一人おひとりに声かけ、尋ねるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を好まれる方、早寝早起きの方、夕食後テレビなどを観て、ゆっくり過ごされる方など、お一人おひとりに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日のバイタルチェックで状態観察し、変化があれば主治医に連絡を取り、指示を受けながら随時検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きの方には皮むき、ゴボウの笹がき等の下ごしらえを手伝っていただいたり、料理人だった方には、調理法など尋ねるようにしている。オシボリたたみ・台拭きは役割として支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、ドライブ外出をするようにしている。門徒寺へのお参りは、お寺様の協力で年2回出掛けている。日頃の会話から希望に応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方のみ所持されている。希望の品物は、預かり金で買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、いつでも出来るようにしている。又携帯電話所持の方には、使い方など援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下には季節の草花を植え季節感を、対面キッチンでは、入所者と会話をしながらの食事作りで、生活感を採り入れている。トイレはスムーズに使用できるよう、排泄チェックを活用して誘導している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、一人用・三人用のソファを置き、廊下にもベンチ・椅子など設置し、本人様の意志を尊重するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの方が使い慣れた家具の持ち込みは無く、入所されてから本人様と相談され、部屋作りされている。家族が泊まれるよう、簡易ベッド等の提供が出来る。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリー・居室・トイレには名札を目の高さに設置している。歩行不安定な方には、途中休憩が取れるよう廊下に椅子などを設置、出来るだけ歩行してもらっている。		